米原市総合計画　第4回審議会「生きがい・安心」部会発言要旨

日時：平成18年12月7日(木)
13:30～15:30
場所：米原公民館3A会議室

1．課長あいさつ

2．資料説明及び審議

《教育について》

委　員：職員ワークショップ資料の弱みを改善する欄に、全市1区制とあるが、実現可能か？
中高一貫教育で目的のはっきりした学校をつくってはどうか。
スクールバスは必要ない。自力で通うのが基本だ。

委　員：特殊な教育には特区が必要ではないか。

事務局：学習指導要領の範囲では1区制はできるが、大きな特色とはならないだろう。
1区制にすると集中の弊害が出る。

委　員：建設計画のとき“どこでもキャンパス”の意味が議論された。自然にふれあうシチュエーションをもつ、市民全てが学ぶこと、今あるものを生かすこと、などがあげられた。

委　員：“どこでもキャンパス”の言葉は残さなければならないのか。

事務局：変わっても良いと考えている。

委　員：子どもの数が減っており、小中学校の統廃合は遠い将来の話ではなくなっている。

委　員：地域の特性を反映するという点で、雪を弱みとするのではなく、強みに変える発想が必要ではないか。スキーの国体選手の輩出や優秀な指導者などもいる。

委　員：複雑な社会状況の中で、地域で学ぶことが大切だ。そうすることで地域の自立が可能になる。
自治会の取り組み（文化の継承など）をネットワーク化して定期的なまちづくり交流会を開けないか。100 を超える自治会のネットワークができれば、どこでもキャンパスが成り立つ。

委　員：CATVを有効活用すればネットワークは簡単にできる。

委　員：地元で様々なまちづくりの取り組みを行っており、県の研修会などで何度も紹介しているが、市からは一度もお呼びがかからない。
以前、地域の歴史を紹介したカルタをつくった。新聞などのメディアにも取り上げら

れ、他の町で取り入れられたこともあった。身近なところから学んでいくことが出来る好例だと思う。

事務局：行政は地域の活動を把握し切れていない。
昔から続いてきた行事や取り組みが何らかの理由で継続できなくなったようなことについては、必要なものなら支援して復活させることも考えられる。

委　員：青年団や婦人会がなくなってきた。地域が子どもを育てる環境が再び必要になっている。地域づくりから取り組む必要がある。

事務局：近年コミュニティが希薄化しており、地域を知ることが必要になっている。

委　員：自治会の広報誌は機能していないのか。

事務局：山東はある。米原にもいくつかあり、自治センターごとに庁内に掲示している。

委　員：私の自治会（米原下多良区）では月 2 回の新聞づくりをしている。
婦人会と子供会が無くなり、地蔵盆がなくなった。

委　員：婦人会活動は昔やりがいがあったが、今は仕事が忙しくどこも無くなっている。

委　員：地域がしっかりしないと、市はしっかりできない。

委　員：住居表示と自治会が一致しておらず、コミュニティの希薄化の一因となっているのではないか。

委　員：地域の良さを発掘して残すと言うことが難しくなっている。
地域のよりどころが無くなっている。

事務局：行政は地域のまとまりを強制できない。

委　員：農村集落のようなまとまりのある時代はよかったが、今はない。

委　員：今は「郷境」をまたいでいる自治会もある。

委　員：長浜は NPO をつくっている。

委　員：市民が地域の良さを知るシステムを作ってはどうか。
ヒメボタルは６～７合目までおり、東京や大阪の人がわざわざ見に来るのに、地元の人は知らない人が多い。

事務局：“どこでもキャンパス”とは皆がわいわい自発的にやることである。

委　員：行政がお金を出すから市民が活動するという考え方はおかしい。
行政は地域の伝統文化の保存を直接するのではなく、宣伝すればよい。

事務局：文化は変わることで伝承を続けている。行政はその記録を保存するという役割が大切であるという意見が職員ワークショップでだされた。

委　員：実感のない伝承は意味がない。
例えば、牛を祭る祭事があるとしても、今牛を飼っている農家がいないという現実があるので違う形で伝承することもある。これを行政が支援することも考えられる。
文化に限らずどういう風にまちづくりを進めるかを示すのが行政の役割だ。

事務局：“ やいと祭り ” で地域を PR している。今年で 10 回目になる。

委　員：ホタルまつりは定着したか。

委　員：特別天然記念物に指定されているのは山東だけだ。

委　員：関ヶ原と柏原は地理的にほんのわずかの距離なのに関ヶ原だけ有名になった。負けた文化でも良いのに、発信するネタがない。

委　員：最近の若い人はコミュニケーション能力が乏しいと思う。
それを補うために若いうちから世代間交流を進める必要がある。
学校教育も大切だが、親・地域が育てることが重要だ。そういうシステムが出来ないか。授業時間が少ないという先生や学校が多いが、地域が学校を支援するという発想も大切だ。
仕事にとられる時間が多くて、ゆとりが無く、地域のための時間がとれないというが、逆にすればいろいろなことがうまくいくのではないか。

委　員：西番場では地域で子育てをしようという動きがある。これを契機として全市に広めてはどうか。

委　員：子どもは誉められると伸びる。

委　員：地域とコミュニケーションがとれる学校を目指してはどうか。
学校が地域へ出向く教育が大切だ。
学校農園が最近無くなっている。

委　員：畑をおこすのは先生で、子どもは植えるだけ、というシステムでは続かない。いかに子どもをすべてのプロセスに参加させるかが問題だ。

委　員：食育が一つのテーマ。つくる喜び食べる喜びを実感させることが大切。

委　員：自宅に田畑がある家庭が多いが、農作業で子ども同士が交流するようになればそれでよい。

委　員：子どもにとっては、話だけの授業や無理からの体験は身につかない。喜んで取り組むことが必要だ。

委　員：スクールガードを地区単位でやっていると、地区の境でとぎれてしまう箇所がでてくる。地域間の連携が必要だ。

委　員：中高生を地域になじませることが課題だ。

委　員：自治会の行事などで子どもに放送係をやらせると楽しんでしっかりこなす。こういうやり方がよい。

委　員：どこでもキャンパスを基本条例に明確に位置づけることはできないか。
学校教育を一段高いところから見直すべきだ。

委　員：学校同士の交流はないのか。

事務局：授業数が限られているのでなかなか見られない。醒井小において育成会事業で米原地

域の小学生が日曜日に交流していた。

学校の情報のネットワーク網は、つながっている程度でテレビ会議のような大容量のやりとりはできない。

委　員：職場体験はどうか。総合学習で講師として呼ばれることがある。子どもは興味深く耳を傾けてくれる。

委　員：話ばかりだと子どもが興味を失う。

委　員：合併協議会の時、市内を知るための巡回バスを走らせるというアイデアが出ていた。今から出来ないか。

委　員：各校で農園をつくって農作業を指導してはどうか。評議員よりよい。

事務局：地域で支える部分、学校で支える部分の仕分けをする必要がある。

委　員：例えば昔やった廃品回収みたいに、地域に任せろ、ということを具体に示せないか。

事務局：地域でやっているゴミの分別のような仕組みをできればどうか。

委　員：学校応援団のようなシステムを地域が考えるべきだ。

委　員：宇賀野では親子で字巡りをして地域を話し合う行事をした。坂田小に集まり、小運動会もした。こうすることによって顔が見渡せる地域が出来る。子どもたちも喜び、顔がしれることで声かけもできるようになる。

事務局：そういった活動を率先する地域リーダーがいる。

《健康について》

委　員：健康に関しては、どこのまちも似通った構想になる。

事務局：総合病院は財政的に困難である。

委　員：分庁方式はいつまで続けるのか。

事務局：各証明は出張所でも対応が可能である。

委　員：健康づくりに関しては行政と市民の責任の線引きが難しい。

安心して暮らせる地域が求められる。

事務局：行政としては医療費が少なくなるような方向も大事だ。

委　員：高齢者医療が問題だ。診療所に通うことが健康の証になっている。

委　員：近年の老人パワーはすごい。企画力、行動力、数字上に現れている。

農業をやっている人は健康で長患いが少ない。

委　員：高齢者に生きがいを与えることがポイントだ。

委　員：多和田という地域では、地場産業もあり、老人に頼る風習がある。老人がとても元気だ。逆に中年層が元気がない。

委　員：団塊の世代は、生きがいづくりが大変だ。

今の年配者は昔遊んでいないから、楽しみがいくらでもある。

委　員：健康づくりは「生きがい」づくりである。生きがいがあれば、健康でいられる。

事務局：生きがいをまちづくりに求めてもらえないか。

委　員：仕事に追われることで元気が出る。

委　員：高齢者による伊吹の観光ガイド制度を作ってはどうか。

委　員：医療体制はどうか。

委　員：総合病院のニーズより頼れるドクターが求められている。

委　員：次回は今日とどかなかった議論を補い、基本構想に近い形にまとめあげたい。

《キーワードについて》

- 自然から学ぶ
- 地域が教える、地域から学ぶ
- 健康づくりは生きがいづくり、まちづくり